

# 川越町の子どもたちの学力向上に向けて

～全国学力・学習状況調査の結果報告～ その2

## 家庭・地域へのお願い

### (1) 家庭学習の習慣を定着させる・・・見守る、声をかける

子どものノートや学習したプリント等にできるだけ目を通し、「見守り・声かけ」をしていただくようお願いします。家庭学習を継続させるためには、声をかける、頑張りの過程をほめる、励ますことです。子どものやる気を引き出すことも保護者の役割です。

#### 【家庭学習を習慣化するポイント】

《児童・生徒》

- ・毎日、決まった時間に決まった場所で勉強する。
- ・テレビ・スマートフォン等の電源を切って、集中して勉強する。
- ・机の上をかたづけて、良い姿勢で勉強する。

《保護者》

- ・カレンダーに「○」を付けるなど、学習の記録を記すようにし、子どもたちの頑張りを「見える化」し、ほめる。

### (2) 家庭内のルールをつくる・・・思いやりの心につながる

テレビやゲームを楽しむ時間や、スマートフォンを使用する時間、方法などについて、家庭でのルールづくりをしていただきますようお願いします。家族同士の触れ合いはコミュニケーション能力の向上にもつながります。また、ルールづくりは子どもの自制心・誠実さ・忍耐強さにつながることはもちろんですが、思いやりや共感力を育みます。

例) 毎週水曜日は「ノーテレビ・ノーゲームデー」にする。

夜の10時以降は、携帯電話やスマートフォンを使わない。 など

### (3) ほめる・認める・・・自己肯定感・自己有用感を高める

今回の児童生徒質問紙の結果からも、「約20%以上の児童生徒が、じぶんには良い所があると感じられない」という状況がみられました。子ども達は個々によって得意なことや苦手なことは様々です。「家族で決めた約束が守れた」「苦手なことにも挑戦した」など、子どもが何かを継続して行ったときや、前向きに挑戦した、以前よりも進歩や成長が見えたときには、その機会を見逃さず、きちんとほめましょう。成功や失敗、順位や点数等だけに注目するのではなく、過程を大切にして、子どもの意思で行動したことを評価することが大切です。

#### 【子どものほめ方のポイント】

- 他の子（友だちやきょうだい）と比べてほめない
- よかったことを具体的にほめる
- 結果（順位や点数等）に注目せず、努力したことをほめる
- その場ですぐほめる

「ほめて伸ばす」ことは、「叱ってはいけない」ことではありません。子どもが「なぜ、叱られたのか」を納得できるような叱り方をして、目指すべき良き行動がとれるように導いていきましょう。

### (4) 親子で読み聞かせや読書をする機会を大切にする・・・家庭読書習慣

読書活動は、使う言葉の幅が広がり表現力が向上し、より豊かな会話につながります。いろいろな考え方に接したり、想像力を膨らませたりすることにより、共感力や発想力が生まれます。「語彙（ごい）の量と質」の違いが学力差に大きく影響しているとの指摘があります。まずは、おうちの方からの読み聞かせや、テレビの時間を読書の時間に変えることから始めましょう。

みえの学力向上県民運動

学校・家庭・地域の教育力を高めよう！

みえの学力向上

検索

